



MRI検査を受けられる方へ

MRIとは

- ・ MRIとは磁気共鳴画像の略で、強い磁石と電磁波を使って体の内部を画像化します。どのような方向の断面でも見ることができるので病気の診断にとっても有用です。また、X線を使わない検査方法なので被ばくすることがありません。

MRI検査の方法

- ・ 検査装置は大きな筒のようになっていて、その中に入って検査を受けることになります。
- ・ 検査中は、連続的な金属音が聞こえます。耳栓をしていただきますが、多少うるさく感じられるかもしれません。この音が聞こえている間は検査中なので、体を動かすことのないようにお願いします。
- ・ 検査中、気分が悪くなったときには、遠慮なさらずに声を出してください。担当者がすぐに対応いたします。
- ・ 検査時間は20分から40分ぐらいです。

MRI検査についての注意

- ・ 心臓ペースメーカー、人工内耳、刺激電極などを身につけている方。また、事故などにより眼球内に金属異物が入っている方は、検査を受けることができません。
- ・ 脳動脈瘤の手術で使われた金属クリップ、心臓人工弁、血管内ステントなどが体内にある方も検査を受けられないことがありますので、主治医にあらかじめお知らせください。また、その他にも手術、事故などにより金属が体内に埋まっている方も主治医にお知らせください。
- ・ 妊婦または妊娠の可能性のある方は主治医にお知らせください。現時点では、MRI検査が胎児に悪影響を及ぼすという確たる証拠は認められていませんが、その危険性を完全に否定する証拠もありません。
- ・ 閉所恐怖症のある方は主治医にご相談ください。

MRI検査当日の注意

- ・ 次の物は故障したり、検査に影響することがありますので検査前に取り外してください。
＜時計、めがね、かぎ、ヘアピン、ピアス、アクセサリ、義歯、補聴器、カイロ、エレキバン、ベルトなどの金属製品＞
＜キャッシュカード、クレジットカード、診察券などの磁気カード＞
- ・ 化粧品（アイシャドウなど）の中には金属を含んでいるものがありますので、検査前に落としておいてください。

MRIの造影検査とは

- ・ MRI用造影剤（ガドリニウム造影剤、酸化鉄粒子製剤など）を静脈内に投与してMRI検査を行うものです。造影剤を投与することで病変の状態がよく分かるようになり、より正確に診断できるようになります。
- ・ MRI造影剤は安全性にすぐれた薬剤と言われていますが、時に副作用の起きることがあります。副作用には吐き気、かゆみ、発疹などがあり（酸化鉄粒子製剤では背部痛もあります）、もしそのような症状が出たときには、MRI室の医師、看護師、技師や主治医に申し出ていただければすぐに対応できるようになっています。
- ・ 極めてまれに、重篤な副作用が起きることがありますが、万全の体制で対応いたします。
- ・ 遅発性副作用といって、検査終了後に時間がたってから発疹などの副作用が出現することがあります。そのような時には、主治医、放射線科医、看護師にご連絡ください。

MRIの造影検査を受けるにあたっての注意事項・お願い

- ・ 造影検査前の食事は控えてください。
 - 午前の検査の時には朝食を、午後の検査の時には昼食を食べないでください。ただし、特に飲水制限のない方は、水、お茶、ジュースなどを控える必要はありません-
- ・ 造影検査を安全に行うために、主治医がアレルギー、造影剤による副作用の有無、妊娠の有無などを問診いたします。
- ・ MRI用造影剤(ガドリニウム造影剤)の母乳への移行が報告されているので、授乳中の方は造影検査後24時間は授乳を避けてください。

予約の変更は3日位前迄にお願いします。それ以降は業務に支障を来たしますので、なるべく御遠慮下さい。

MRI検査について何か疑問な点がありましたら、検査担当者又は下記の連絡先へお尋ね下さい。

磐田市立総合病院
電話0538-38-5000(代)

放射線科